

国内研修報告書

今回法政大学生14名で8月25日から30日にかけて国内研修として、島根県の隠岐諸島の島前の有人島である、海士（あま）町、知夫（ちぶ）村、西ノ島（にしノしま）町に行きました。24日に夜行バスに乗り、約13時間揺られ25日の朝島根の松山駅に着き、そこから三時間ほど船に乗り12時ごろ別府港に到着しました。この日は次の日の中学校での交流授業のための準備でライフストーリーチャートを作りました。隠岐には大学がないということで、中学生に大学生とはどういうことをしているのかを伝え、将来を考えてもらうということが隠岐に来た一番の目的でした。26日の3・4時限目に中学校で交流授業があり、授業の前に校長先生と担任の先生からお話がありました。この授業での中学生の目的は大学生がどんな目標を持ち、学習をしているのかを知り、これからの生き方や今努力することについて考えるというもので、グループ分かれて交流をしました。私がペアになった子は大学に行くことを考えているようでした。事前学習の時に島には大学がないので大学生のイメージがないといわれたので大学に行きたいと考えている子がいたことに少し驚きました。でも私の住む家の近くには大学がいくつかあったけれど、大学生になるなんて考えたことはなかったし、自分が大学に行くことも中学生の頃は考えていませんでした。だから大学が近くにあるイベントなどに参加していれば違うかもしれないけれど、大学があるかないかはあまり関係がないのではないかとも思いました。ですが、グループでまとめて発表したときに高校に行くことを迷っている人もいたようで、今回の授業が将来を考えるときに少しでも思い出されたいなと感じました。大学進学だけでなく島を出てやってみたいことがある人もいたようです。そういう考えは大切だと思いますし、いろいろなものを見て、新たな視点や方法をもって島での活躍を期待している、というようなことを先生もおっしゃっていました。反省時に出たものとして、今回の交流授業は自分たちではなくてもよかったのではないかという意見が出ました。私は中学生からの質問に答えるばかりで用意したものをうまく活用できなかったことと、大学に行きたいと思った経緯など中学生のことも聞けたら、大学生生活や中学、高校のころ考えていたことについてもっと話げできたのではないかというのが反省点として挙げられます。

26日の夕方畜産をやっている方のところへお邪魔して畜産についてお話をさせていただきました。隠岐では放牧を行っているようで、車で案内もしていただきました。山のかなりの急傾斜の場所でも牛がいて、そういう場所だからこそ、足腰が強く爪がしっかりした牛が育つそうです。狭い土地を生かしながらよい牛を育てているのだなと思いました。夜はお家にお邪魔してバーベキューをさせていただきました。そのとき、サザエやイカ、隠岐牛も食べさせてもらいました。隠岐牛は信じられないくらい美味しかったです。貴重なものをいただきました。また間近で牛や馬を放牧しているところを見られてよい経験でした。しかしもう少し隠岐の畜産について知識を持っていけば、お話も聞くばかりでなく深められたのにといい、そこは反省点です。

27日は前日の振り返りを行った後夕方に海士町のキンニャモニャ祭りに行きました。キンニャモニャは海士町の民謡でしゃもじを持って踊ります。島前高校の生徒や保育園の先生方や年配の方々など様々なグループで踊りに参加していて、外国の方も何人かいらっしやいました。島の外からも参加する方がいるそうです。飛び入り参加組もあって私たちも途中からそこに入れてもらい、しゃもじを借りて踊りました。自分の地元以外のお祭りに参加したことがなかったし、地元ではみんなで踊るといことがないので、とても新鮮で、踊りに参加できてとても楽しめました。こうやっていろんな年代の人や、他からきたひとが一緒になって参加できる行事があること、またこういうのが続けられていくことは大切なことだと思いました。

28日はひどい雨風でしたが観光をする予定だったので、3島それぞれにわかれしました。知夫に行ったのですが、天気が悪く観光名所はよく見られませんでした。また町の人とお話することを目的の1つにしたのですかできなかったのもっと自分から積極的になればよかったなと思いました。

29日は西ノ島町の地域振興課へ行き、定住促進係、観光商工係、農林水産係の方々にお話を聞きました。こんな機会はめったにないので時間を割いて頂けたことにとても感謝しています。子育て制度は充実しているようで、保育園や学童保育もあり、また2人目以降の保育料を半額にしたり中学生までの医療費を無料にしたりしているそうです。また島に産婦人科がないため本土の病院に行かなくてはならず、ホテル代を行政が負担したりするなどいろいろな工夫がされていることを知りました。今は子育てのしやすさよりも、結婚しない人が増えてきている方が問題になっているそうです。また海士町はNPOが多かったが西ノ島町は1団体だけなのはどうしてかという質問が出ました。西ノ島町はNPOに向いてないからだそうです。西ノ島町の人には商売気が強く、みんなでこれをやろうという活動が、どうしても商売の色が出てきて長続きしないそうです。こういうのは数字だけ見てもわからないことなので来た意味があったと思います。そして高齢化の問題もあるそうです。老人ホームは2個しかないのでベッドの数が限られていて順番待ち状態であり、施設を広げることも難しいそうです。一人暮らしをしている高齢者で買い物に行くことが難しい方のところへ移動販売やバスを出すなどしているそうです。また週2回程度家までご飯を届ける配食サービスも行っていて、これは見守り活動も兼ねているようです。また産業の跡継ぎの問題もあるようです。今は80代が多く若くても70代だそうです。これに対しては新規就業者へお金がかかる最初の5年に補助をだし、最初のハードルを下げたり、Iターンで来る人などに体験就業を行ったりしているそうです。定住促進係の方からはIターンやUターンのことについて聞くことができました。若者がUターンしたいと思うような取り組みというよりは、戻ってくる時には仕事と家が必要なので戻ってきたいと思ったときに帰ってこられる体制を整えることをするそうです。私自身以前から島や小さな町は人々のつながりが密接だという考えがありました。だからこそ、外から来た人はそのコミュニティになじめないこともあるのではないかと思います。Iターンしたけれ

ど、馴染めずに帰らなくてはいけないのは嫌だなと思いました。やはり I ターンの方は馴染むのに時間がかかるようです。地元の人と交流できる集まりがあればいいなと思いましたがそれはやってないそうです。ですが、定住会議といって I ターンの人を中心に集まってまずは I ターン同士の輪をつくるということをやっていたそうです。仕事や住む場所も必要ですが、長く暮らしていくために近所付き合いや土地に馴染むというのもとても大切だと思います。そのために自分から周りに働きかけていくということも大切だとは思いますが、定住会議のようなものがあればもっと気持ちが楽になると思いました。また人口減少に歯止めをかけるため 20 年前から夫婦のどちらかが 50 代の人を呼び込むシルバーアカディア事業というのがあるそうです。しかしお墓の問題などもあり I ターンの方が亡くなったときの問題が解決されていないので、死ぬまで島にいる人はなかなかいないようです。

今こうやって聞いた話を整理していると、もう少し詳しく聞いておけばよかったと思う部分も出てきて、質問したときはそれに対しての答えを聞くことしか考えられていなかったなと思います。ですが直接聞いたことで得るものもあってとても良い機会でした。

本当は 29 日に船で帰るはずだったけれど悪天候で船が出なかったため、延泊することになりました。夜ご飯は去年いらした先輩の実家の方にお邪魔しました。そのとき、お昼に地域振興課から帰るときに見かけた方もいらっしゃいました。夜ご飯にお世話になったことも先輩方の島の人とのつながりがあったからだし、そこに全く知らなかった町の人と一緒に話してきたのも、町の人同士とのつながりがあったからだし、延泊することになったことで新たなお話を聞く機会ができて早く帰りたと思っていた気持ちが変わりました。

今回の島前合宿での中学生との交流や島の人たちとの交流、行政の方々の話それぞれに反省点はあるけれど、全体では来てよかったと思うし自分なりに得るものはありました。参加できてよかったです。